

(案)

第4次国有林野施業実施計画書

(西毛森林計画区)

計画期間 自 平成22年4月 1日
至 平成27年3月31日

関東森林管理局

目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
(6) 伐採総量	4
(7) 更新総量	5
(8) 保育総量	5
3 林道の整備に関する事項	6
4 治山に関する事項	10
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	11
(1) 保護林の名称及び区域	11
(2) 緑の回廊の名称及び区域	11
6 レクリエーションの森の名称及び区域	12
7 その他必要な事項	20
(1) 施業指標林、試験地等	20
(2) フィールドの提供	21
(3) その他	21

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

（単位：面積ha、伐期齢 年）

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ 長伐期	821.37	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
スギ 分散伐区	1,497.75	〃	45
ヒノキ 長伐期	416.06	〃	80
ヒノキ 分散伐区	389.20	〃	50
ヒノキ枝打分散伐区	348.71	伐採面積の縮小、モザイク的配置、照度の確保	50
アカマツ 長伐期	—	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
アカマツ 分散伐区	101.62	〃	50
カラマツ 長伐期	1,165.82	〃	80
カラマツ 分散伐区	2,217.90	〃	50
オオタカモデル森林 長伐期	1,294.11		80
オオタカモデル森林 林種改良	107.46		スギ45年、ヒノキ・カラマツ50年
オオタカモデル森林 生息環境保全	514.17		回帰年は定めない
スギ 複層林	802.83	—	45～90
ヒノキ 複層林	447.53	—	50～100
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ分散伐区	80.91	伐採面積の縮小、モザイク的配置	50
ぼう芽 分散伐区	75.67	〃	25
天然林漸伐分散伐区	2,769.24	伐採面積の縮小、モザイク的配置、伐採率の縮小	70（シジ 120）
ブナ漸伐 分散伐区	—	—	—
択伐	7,532.74	—	回帰年は定めない
その他	227.74	—	定めない
施業群設定外	—	—	—
合計	20,810.83		

（注） 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の發揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施 業 群	上 限 伐 採 面 積	摘 要
ス ギ 長 伐 期	5 3	
ス ギ 分 散 伐 区	1 6 6	
ヒ ノ キ 長 伐 期	2 6	
ヒ ノ キ 分 散 伐 区	3 9	
ヒノキ枝打分散伐区	3 5	
アカマツ 分 散 伐 区	1 0	
カラマツ 長 伐 期	7 3	
カラマツ 分 散 伐 区	2 2 2	
オオタカモデル森林 長 伐 期	7 0	
オオタカモデル森林 林 種 改 良	定めない	
オオタカモデル森林 生息環境保全	定めない	
ス ギ 複 層 林	8 9	
ヒ ノ キ 複 層 林	4 5	
天然生アカマツ分散伐区	8	
ぼ う 芽 分 散 伐 区	1 5	
天然林漸伐分散伐区	1 9 8	
択 伐	7 5 3	
そ の 他	2 3	
合 計	1, 8 2 5	

(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位：面積ha、伐期齢年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ大径材	0.85	造作材 (36cm)	80
スギ中径材	514.62	一般建築材 (22cm)	45
ヒノキ大径材	—	—	—
ヒノキ中径材	88.15	一般建築材 (22cm)	50
ヒノキ無節柱材	—	芯持柱材 (22cm)	50
アカマツ大径材	—	—	—
アカマツ中径材	21.75	一般建築材 (24cm)	50
カラマツ大径材	—	—	—
カラマツ中径材	36.78	一般建築材 (22cm)	50
スギ複層林	—	造作材・一般建築材 (22~36cm)	45~90
ヒノキ複層林	—	造作材・一般建築材 (22~26cm)	50~100
その他複層林	—	—	—
天然生アカマツ中径材	—	一般建築材 (24cm)	50
ぼう芽	17.62	しいたけ原木 (8~12cm)	25
天然林漸伐	—	家具・木工・加工用材 (30cm・シオジ40cm)	70 (シジ ¹ 120)
ブナ漸伐	—	—	—
択伐	3.93	家具・木工・加工用材 (30cm)	回帰年は定めない
その他	—	定めない (保護樹帯等)	定めない
生産群設定外	—	—	—
分収林	58.17	—	契約による
合計	741.87		

(注) 1. 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

2. 択伐生産群の伐採は標準伐期齢以上とし、隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当該森林計画区の「資源の循環利用林」は分収林が大部分であり、標準伐採量は定めないこととする。

(6) 伐採総量

(単位：面積ha、材積)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
水 土 源 か 保 ん 養 全 林	国土保全タイプ	396	7,643 (137.82)	8,039	12,100	254,696		254,696
	スギ長伐期	—	21,803	21,803				
	スギ分散伐区	13,387	53,484	66,871				
	ヒノキ長伐期	—	2,466	2,466				
	ヒノキ分散伐区	—	5,561	5,561				
	ヒノキ枝打分散伐区	—	4,243	4,243				
	アカマツ分散伐区	—	1,708	1,708				
	カラマツ長伐期	—	18,001	18,001				
	カラマツ分散伐区	—	27,643	27,643				
	オオタカモデル森林 長伐期	—	23,356	23,356				
	オオタカモデル森林 林種改良	12,396	876	13,272				
	オオタカモデル森林 生息環境保全	—	2,313	2,313				
	スギ複層林	—	21,377	21,377				
	ヒノキ複層林	—	3,896	3,896				
	天然生アカマツ 分散伐区	—	360	360				
	ぼう芽分散伐区	—	75	75				
	天然林漸伐区	734	7,061	7,795				
	択伐	—	8,470	8,470				
	その他	—	149	149				
	小 計	26,517	202,842 (3,035.16)	229,359				
計	26,913	210,485 (3,172.98)	237,398					
森 林 と の 共 生 林	自然維持タイプ	—	—	—				
	森林空間利用タイプ	577	4,621 (70.18)	5,198				
	計	577	4,621 (70.18)	5,198				
循 環 源 利 の 用 林	スギ中径材	18,166	14,025	32,191				
	ヒノキ中径材	1,265	1,416	2,681				
	アカマツ中径材	—	422	422				
	カラマツ中径材	1,923	—	1,923				
	分収林	6,503	2,565	9,068				
	計	27,857	18,428 (201.52)	46,285				
合 計	55,347	233,534 (3,444.68)	288,881	14,400	303,281	—	303,281	
年 平 均	11,069	46,707 (688.94)	57,776	2,880	60,656	—	60,656	

(注) () は、間伐面積である。

(7) 更新総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単層林造成	—	108.19	108.19	—	—	—	95.96	204.15
	複層林造成	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	108.19	108.19	—	—	—	95.96	204.15
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	4.57	72.94	77.51	—	9.81	9.81	11.02	98.34
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—	5.55	5.55
	計	4.57	72.94	77.51	—	9.81	9.81	16.57	103.89
合 計		4.57	181.13	185.70	—	9.81	9.81	112.53	308.04

(8) 保育総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
保 育	下刈	—	661.56	661.56	—	20.86	20.86	115.20	797.62
	つる切	—	147.95	147.95	—	0.71	0.71	1.58	150.24
	除伐	4.38	267.63	272.01	—	—	—	—	272.01

3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	開設	赤久縄林道	35	760	
		中木林道	112、114	840	
		手白坂林道	42	740	
		白倉林道	19	1,000	
		砥沢林道	50、51	3,000	
		栗木立林道	53	1,400	
		三岩山林道	47、48	1,500	
		鹿岳林道	12	2,000	
		四又山林道	12	1,000	
	小計	9路線		12,240	
基幹	改良	本谷林道	65	20	
		中之沢（みみずく） 林道	68、69	20	
		中之沢（栃久保） 林道	71～74	30	
		中之沢（本谷）林道	74、76	20	
		中之沢（中之沢） 林道	77－I 78～83	50	
		中之沢（乙父）林道	民地	10	
		中之沢（乙父東沢） 林道	60	10	
		乙父林道	61～63	20	
		道平林道	10	30	
		立岩稲舎（滝ノ沢） 林道	24	20	
		立岩稲舎（高倉）林道	25～27	20	
		立岩稲舎（栗山）林道	27、29	20	
		砥沢林道	51～53	30	
		峠林道	139～143	30	
		中川林道	162～166	30	
		地蔵峠・三沢 （檜尾）林道	158～162、 164	127	
地蔵峠・三沢 （中川）林道	168	20			

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	改良	地蔵峠・三沢増田川 支線	165、166、 177～179	30	
		地蔵峠・三沢 (地蔵峠) 林道	179～182、 205～207	30	
		地蔵峠・三沢 (本丸三ツ丸) 林道	212、213、216	30	
		地蔵峠・三沢 (三沢) 林道	229～232	30	
	小計	21路線		550	
その他	改良	本谷林道ぶどう沢 支線	66、67	10	
		本谷林道本谷支線	68、74	10	
		中之沢林道サルマキ 支線	83	10	
		中之沢林道 オボロガヤ支線	82	10	
		中之沢林道 清水日向支線	81	10	
		中之沢林道 中之沢支線	77	10	
		中之沢林道本谷支線	76	10	
		中之沢林道 大蛇倉支線	75	30	
		中之沢林道 イオドメ支線	69	20	
		十石峠林道	48、49、51	10	
		馬山林道	25	10	
		那須林道	28	20	
		宮城林道	民地	10	
		堂ノ入林道	18	20	
		白倉林道	19	10	
		荷倉沢林道	4	10	
		栗ノ木林道	4	10	
		手白坂林道	33、42	10	
		道全林道	144	10	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	改良	熊の平林道	121～123 129、130	20	
		赤石沢林道	155	10	
		一の瀬林道	175、180、181	30	
		一の瀬林道 トロガ沢支線	174、175	20	
		ノクビ沢林道	177	20	
		地蔵峠林道(一の瀬)	177、178	10	
		中川林道 五十嵐沢支線	168、170	10	
		中川林道中川支線	163、164	10	
		檜尾林道檜尾分線	159	10	
		東地蔵峠林道	183、184、195、 198～204	30	
		東地蔵峠林道 赤根沢支線	184、185、 190～192、194	30	
		東地蔵峠林道 赤根沢分線	192	10	
		東地蔵峠林道 水沼支線	202、203	10	
		赤根沢林道	民地	10	
		滑川林道	239～244 247～250	30	
		滑川林道細尾沢支線	247～257	30	
		滑川林道細尾沢分線	246～248	10	
		鳴石林道	260、266、267	20	
		鳴石林道笹平支線	270、271、275、 276、278、281、 282	30	
		本丸三ツ丸林道 大平支線	218～220	30	
		三沢林道川浦支線	231	10	
		三沢林道三沢支線	227～229	10	
		三沢林道大日陰支線	223～226	20	
		赤久縄林道	35	10	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	改良	中之沢林道 御巢鷹分線	70	10	
		中木林道	112、114	10	
	小計	45路線		690	
合計	開設	9路線		12,240	
	改良	66路線		1,240	

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
1、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、63、64、65、66、67、68、71、73、76、77、78、79、80、81、82、83、87、88、103、107、108、110、112、115、118、124、127、129、131、132、133、136、137、138、139、140、142、143、144、145、152、154、155、156、157、158、159、160、163、164、166、168、169、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、188、189、190、191、192、193、194、196、198、199、200、202、203、204、205、206、207、208、211、212、214、216、217、218、219、220、221、222、223、224、226、227、230、232、235、236、239、240、241、242、244、248、249、250、251、253、254、255、256、257、259、260、261、262、264、265、267、268、271、272、273、276、279	保安林の整備	そ の 他	3,042ha
4、5、6、8、10、12、13、17、18、19、22、23、24、26、28、30、31、32、33、34、35、38、39、40、41、42、43、45、49、51、52、53、56、59、66、67、68、74、75、84、85、87、88、89、107、110、112、114、115、121、122、123、124、125、129、139、140、141、142、146、151、152、153、154、155、158、159、160、161、163、165、166、167、170、177、178、179、180、223、227、228、229、238、240、241、242、243、248、252、255、263、280	保安施設	溪 間 工	238箇所
5、6、10、12、13、19、22、26、33、34、38、41、43、49、56、59、60、61、85、87、130、142、151、152、159、160、163、166、167、177、178、179、180、183、230、232、240、241、243、251		山 腹 工	
5、8	地すべり防止		5箇所
合 計	保安林の整備		3,042ha
	保安施設	溪間工・山腹工	238箇所
	地すべり防止		5箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

当計画区には、動植物の保護、遺伝資源の保存等を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定し、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保護、保存を図っていくこととする。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
植物群落 保護林	天丸山 天然ヒノキ	既設	119.35	59ぬ 59る 60は 60へ 60と	ツガ、モミ、ミズナラ、イヌブナ、シオジ等を混生したヒノキ天然生林。また、ハコネコメツツジの自生地。 天然ヒノキ群落は、健全な状態で維持されていることから、今後も自然の推移にゆだねた管理を行っていくこととする。
	上野檜原の シオジ	既設	290.19	86全	天然分布の北限に近い位置に存するシオジ天然林。シオジをはじめ天然林を構成する植生は、健全な状態で維持されていることから、今後も自然の推移にゆだねた管理を行っていくこととする。
植物群落保護林計			409.54		
保護林合計			409.54		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 休 養 林	妙 義	既設	1,009.28	<p>表妙義は、妙義山系の独自の柱状の峻厳な奇岩、巨岩の集団からなり、奇岩群の下に堆積した土壌に原生林が生育し、優れた自然景観が形成されている。</p> <p>また、裏妙義については妙義湖、妙義山の岩山と一体となつて優れた自然美が形成されており、既設国民宿舎等の活用により、自然探勝等の休養活動に適している。</p> <p>このため危険箇所の点検など巡視を強化し、利用者の安全の確保を図ることとする。</p>	114 い	育成単層林 施業
					115 ほ	
					101 ろ、は、ち	育成複層林 施業
					104 い	
			風景ゾーン 382.78		114 ろ ₁ ～ろ ₃ 、に、 へ ₃	
			風致探勝 ゾーン 626.50		115 い ₁ 、ろ ₁ 、ろ ₂ 、 に	
					101 い、に～と ₃ り	天然生林施 業
					102 ち、ぬ	
					103 は ₁ 、は ₂ 、 ち～る	
					104 ろ ₁ ～は	
					105 い ₂ 、に ₁ 、に ₂	
					106 い ₁ ～い ₃	
					107 ち	
					113 い、ろ	
					114 は、ほ	林地以外
	115 い ₂ 、は、へ、 と					
	116 は ₁ ～は ₄					
	101 イ～ニ					
	104 イ ₁ 、イ ₂					
	113 イ ₁ 、イ ₂					
	114 イ～ハ					
	115 イ ₁ ～ロ ₃					
自然休養林計			1,009.28			

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然観察教育林	小根山森林公園	既設	91.26	<p>明治37年に林業試験地として開設。昭和30年以降は見本林として管理運営され、自然学習の場として適している。</p> <p>日本各地の有用樹はもとより多くの外国産樹種があり、四季を通じて多くの野鳥が観察できる。</p> <p>本森林公園は、児童から年配者まで幅広い年齢層の人々が、年間を通して利用していることから、危険箇所の点検など巡視を強化し、利用者の安全の確保を図ることとする。</p>	157 ろ、に ₁ ～ ₁₆ ～ ₁₈ 、～ ₂₀ ～ ₂₂ と ₁ ～と ₄ 、 ち ₂ ～ち ₅ 、 ち ₈ ～る ₁ 、 る ₃ 、る ₅ ～わ ₃ 、 わ ₅ 、か ₁ 、か ₃ 、 か ₅ 、か ₆ 、 か ₉ ～か ₂₁ 、 か ₂₆ ～か ₂₈ 、 た ₂ ～そ ₁ 、そ ₅ そ ₈ 、そ ₉ 、 ね ₁ ～な ₇ 、な ₉ 、 な ₁₁ ～な ₁₃ 、 な ₁₅ ～ら ₂ 、む ₂ 、 む ₃ 、う ₂ ～の ₂ 、 の ₄ ～お ₂ 、ま ₄ 、 え ₂ 、え ₃ 、き ₂ 、 み ₁ 、み ₃ 、し ₃ 、	育成単層林 施業
					157 は、～ ₁₉ 、 ～ ₂₃ ～ ₂₇ 、 と ₅ 、ち ₁ 、ち ₆ 、 ち ₇ 、る ₂ 、る ₄ 、 わ ₄ 、か ₂ 、か ₄ 、 か ₇ 、か ₈ 、 か ₂₂ ～か ₂₅ 、 よ ₁ ～た ₁ 、 そ ₂ ～そ ₄ 、 そ ₁₀ 、つ、な ₈ な ₁₀ 、な ₁₄ 、 む ₁ 、む ₄ 、 む ₆ ～う ₁ 、の ₃ く～ま ₃ 、 け～え ₁ 、 え ₄ ～き ₁ 、	育成複層林 施業

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 観 察 教 育 林	小 根 山 森 林 公 園	既設			157 ゆ〜め ₂ 、み ₂ 、 し ₁ 、し ₄ 、ひ ₁ い、〜 ₁₇ 、 〜 ₂₈ 、そ ₆ 、 そ ₇ 、む ₅ 、 し ₂ 、ひ ₂ 、	天然生林施 業
					157 い ₁ 〜ト、	林地以外
自然観察教育林計			91.26			
種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
野 外 ス ポ ー ツ 地 域	観 音 山 ス ポ ー ツ 林	既設	77.31	中央部（民地）の林間に白衣 観音がそびえ、高崎観音として 著名である。 この地区は、都市近郊の森林 公園として車道、建物、園地等 が整備され、保健休養の場とし て地域住民はもとより全国各地 の人達に利用されている。 このため利用者の安全を確保 するため、巡視の強化を図ることとする。	89 い〜る、 90 い ₁ 〜〜 ₂ 、 と〜る	育成複層林 施業
					90 〜 ₃ 、	天然生林施 業
					89 い ₁ 〜ロ、 90 い ₁ 〜ハ、	林地以外
野外スポーツ地域計			77.31			

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風景林	大山	既設	87.05	<p>県道下仁田・軽井沢線沿いの近景林で、全般的に急峻な地形を呈し、アカマツ、コメツガ、ミズナラ等の天然林が区域上部を占め優れた景観を形成している。</p> <p>山頂部からの妙義山、関東平野等の眺望は良好であり、登山、自然探勝、ハイキング等に適している。このため、利用者の安全の確保を図るため、巡視の強化を図ることとする。</p>	2 に、と、ぬ、 る ₂ ～わ	育成複層林 施業
					2 い ₁ ～は、ほ、 へ、ち、り、 る ₁ 、か	天然生林施 業
					2 イ	林地以外
香坂 矢川峠	〃	〃	83.57	<p>長野県境の香坂矢川峠付近に位置し、ブナ、ミズナラ等の天然林とヒノキ、カラマツ人工林から構成され、優れた景観を形成している。</p> <p>峠付近には、約2haの高原台地があり眺望も良好である。登山、自然探勝、ハイキング等に適している。</p> <p>このため、利用者の安全の確保を図るため、巡視の強化を図ることとする。</p>	5 よ ₁ 、よ ₂ 、 6 ろ ₁ 、ろ ₂	育成複層林 施業
					6 い、は、に	天然生林施 業
					5 い ₁ ～い ₃ 6 イ	林地以外
立岩	〃	〃	35.81	<p>長野県境に接しブナ、ミズナラ等の天然広葉樹で構成され切り立った絶壁とその上の比較的平坦な台地からなり特異な山岳景観を呈している。</p> <p>このため、利用者の安全の確保を図るため、巡視の強化を図ることとする。</p>	16 よ 17 も	天然生林施 業

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風景林	日向山	既設	73.43	国道299号沿線平原集落北方2kmに位置し、コメツガ、ブナ、ミズナラ、ケヤキ等を上層とし、下層にはヨウラクツツジ、トウゴクミツバツツジ等により優れた自然景観を形成している。	39 い、ろ	天然生林施業
	荒船山	〃	178.17	長野県境に接し国道254号線沿いに位置する近景林で、モミ、ミズナラ等の天然林とスギ、カラマツ人工林から構成されている。 荒船山は高さ200mの大絶壁と長さ2kmの熔岩台地からなり、特異な山岳景観を呈しており登山、自然探勝、ハイキング等に適している。 このため、利用者の安全の確保を図るため、巡視の強化を図ることとする。	8 な ₃ 、む ₁ 〜う ₃ 、 お、ま〜け ₄ 、 ふ 9 ほ〜り	育成複層林施業
					8 り、れ、な ₁ 、 な ₂ 、ら、の、 く、や 9 る ₁ 〜わ ₁	天然生林施業
					8 イ ₁ 〜ロ ₂	林地以外
	碓氷峠	新設	239.62	国道18号線（旧道）沿いの煉瓦造りのアーチ式鉄道橋（通称めがね橋）は国指定の重要文化財に指定され、また世界遺産候補地として注目されている。 沿線は主にケヤキ、ミズナラ等約90年生の広葉樹林で構成され、一体的に優れた景観を呈している。新緑、紅葉狩りに遊歩道等についても年間を通じ多くの観光客に利用されている。	127 ろ、に、ほ 128 は、に 129 い ₂ 、か ₃	育成単層林施業
					124 へ、ち 127 い、へ、は ₂ 128 ろ、ほ 129 い ₁ 、に、と、 ち、る ₁ 、る ₃ 、 か ₁ 、か ₄ 、よ、 れ、つ、ね、	育成複層林施業

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風 致 探 勝 林	榛 名 湖	既設	96.60	<p>上毛三山のひとつで、秀峰榛名富士を中心とした榛名湖畔にあって風光明媚な景観を呈している。</p> <p>このレクリエーションの森は隣接する吾妻森林管理署管内の区域と一体となって設定されており、自然探勝、キャンプ、ピクニック等に適している。</p> <p>このため、利用者の安全の確保を図るため、巡視の強化を図ることとする。</p>	285 い、は、ほ、り、ぬ	育成複層林 施業
					285 ろ、に、へ～ち	天然生林施 業
					285 イ ₁ ～ロ ₂	林地以外
風 致 探 勝 林 計			96.60			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
その他	神の池園地	既設	0.46		28 口	林地以外
	根小屋城址展望台	〃	0.18		87 イ ₁	〃
	根小屋1号園地	〃	0.02		87 イ ₂	〃
	根小屋2号園地	〃	0.01		34 イ ₃	〃
	西御荷鉢山園地	〃	1.65		20 イ	〃
	峠見晴台	〃	0.05		127 イ	〃
そ の 他 計			2.37			
合 計			1,974.47			

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業指標林	間伐推進指標林	昭 62.4	1.28	35 ね ₃	間伐技術の普及及び利用面を重視した間伐を積極的に推進する。
施業指標林計			1.28		
試験地	本谷 A 種 収穫試験地	昭 14.4	1.99	69 ろ	成長量、収穫量及びその他の統計資料を収集し、林分構造の推移を解明する。
	シオジの 天然更新法 試験地	昭 57.4	0.73	80 へ ₁₂	天然下種更新によりシオジ二次林の確実な成林が可能かどうかの調査を行う。
	人工造林による 広葉樹林施業法 試験地	昭 63.4	0.12	73 り ₂ 、り ₃	更新樹種の特徴を考慮した人工造林による広葉樹林施業法について検討する。
試験地計			2.84		
次代 検 定 林	試験次代検定林	昭 40.4	2.88	168 ろ ₃	(関前 へ号)
	一般次代検定林	昭 51.4	0.71	31 う ₂	(関前局44号)
	地域差次代検定林	昭 51.4	0.48	24 の ₇	(関前局45号)
	遺伝次代検定林	昭 59.5	0.96	53 む ₃ 、む ₄	(関前局57号)
	抵抗性次代検定林	平 2.5	0.58	179 り ₂	(関前耐寒風前橋11号)
次代検定林計			5.61		
展示林	小根山展示林	昭 30.7	86.80	157 い～ひ ₂	外国樹種等を展示する。
	細野ヒノキ展示林	昭 63.4	0.93	182 ろ ₉	
展示林計			87.73		
遺伝子 保存林	雲上の松遺伝子	昭 45.4	2.13	254 ろ ₁	
遺伝子保存林計			2.13		
合計			99.59		

(2) フィールドの提供

対 象 地 (林小班)	設 定 の 目 的	備 考
87 に ₁ 、る ₁ 、る ₂ 89 い、ろ、と〜り	ふれあいの森	39.65 ha
87 い ₁ 〜る ₂	遊々の森	57.18 ha

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (h a)	施 業 方 法
28 ま 35 し ₃ 70 れ 76 ね〜ら、う ₁ 、の、く、や 87 ろ ₁ 〜は ₆ 、に ₂ 〜に ₄ 、へ、ち ₁ り〜ぬ ₂ 88 い〜は、ほ〜ぬ、わ〜よ ₂ 、 れ ₁ 〜う ₁ 、の〜ふ、え〜さ、 ゆ〜し		育成複層林施業
15 ひ ₂ 35 し ₄ 76 む、う ₂ 、お、ま 87 い ₁ 、い ₂ 、ほ、と、ち ₂ 88 に、る ₁ 、る ₂ 、た ₁ 〜た ₃ 、う ₂ 、 こ、き		天然生林施業
76 ロ ₂ 〜ロ ₇ 88 イ〜ハ		林地以外
計	253.47	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。